

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み（案2）

人間文化学部 心理学科（高一種免（公民））

①教員養成の目標

現代社会ではグローバル化による価値観の多様化を背景として、さまざまな心の問題の発生及び柔軟な対処が求められる。こうした社会の中で、学校現場の問題も複雑化しており、生徒、保護者、教員間での密なコミュニケーションが重要視されている。心理学科では、心理学の専門知識を有する高校・公民教諭（一種）を養成している。本学科では、カリキュラムを通して、幅広い人間性を育成し、教科の基礎的・理論的内容と指導力を修得するとともに、心理学的な知識と技術を用いて、現在の学校教育の諸問題に即応しうる実践的能力を身につけた専門職としての教員を養成する。また、生徒や教員間の相互交流ならびに共同して課題解決に臨める人材の知識・技能・態度及び人格を形成することを目指す。

②教員養成の計画

教科の専門的知識、教育学、心理学の知識は、カリキュラムの中で修得する。加えて、心理学科では、「教育・発達系」、「医療・福祉系」、「地域臨床系」の3つの分野に渡るフィールドワークも体験する。たとえば、教育心理学の観点から、ピア・サポート活動による仲間づくりに関する教材の開発、その教材に基づく研修を経て近隣の高等学校での実践指導を行う（「教育・発達系」）。また、発達障害等に関する臨床教育心理学的知識を基に、さまざまな障害児・者に対する学習支援を行う（「医療・福祉系」）。さらに、地域の安全・安心な社会の構築に貢献する「地域安全マップ」作りの指導を、小学校の授業の一環として行う（「地域臨床系」）。学生は3つの分野のいずれかの活動を体験できる。このように、知識の獲得のみに偏重せず、フィールドワークでの体験によって、講義で得た知識を定着させ、さらに教員として求められる指導力・技術力を磨く。

③教員養成教育の質向上の取り組み

1年次から4年次までの年次ごとに、担任教員及び教職課程担当教員が教職課程履修学生に対して、個別に履修指導及び教職指導を実施している。4年次の教育実習では、教育実習科目の担当教員の事前・事後指導とともに、学科教員が実習期間中に実習校へ出向き、実習校の指導教員とともに、実習内容の改善と充実を図っている。

また、学科独自の取り組みである3つの分野に渡るフィールドワークに加え、先輩が後輩の学修支援を行う取り組みも実施している。こうした活動を通して、学生の対人援助の知識・技能・態度の獲得を促している。
